商経アドバイス　令和５年７月13日（木）第6257号

5月末の民間在庫 9%減185万㌧に
需要回復で月間34万㌧販売

農水省はこのほど、水稲うるち米の５月末における民間在庫を全国で合計185万㌧と発表した。前年同月末を19万㌧、（9%）下回り、9カ月連続で前年同月より少ない状況にある。前年産から5万2000㌶(30万㌧弱相当)削減された主食用米作付面積の圧縮に加え、集荷低迷の影響が大きい。

在庫のうち４年産は163万㌧となり、前年同月末の３年産より16万㌧（9%）減少。１年古米の３年産は14万㌧で、前年同月末の古米（２年産）より５万㌧（26%）少ない。３年産古米には、米穀周年供給・需要拡大支援事業（周年事業）の対象となる先送り販売米穀（後倒し拡充支援８万㌧）も含まれる。このほか集計の上で年産を特定していない未検査米が８万㌧で、前年同月末より２万㌧（33%）多い。

全農・道県出荷組合など出荷段階にある在庫は149万㌧となり、前年同月末より20万㌧（12%）少ない。このうち４年産は136万㌧(前年同月末の３年産比で18万㌧＝12%減）で、３年産９万㌧（５万㌧＝36%減）に。未検査米が４万㌧（前年同月比３万㌧増）となり、前年同月末の４倍ある。

コメ卸など販売段階の在庫は36万㌧となり、前年同月末を１万㌧（3%）上回っている。このうち４年産は26万㌧(前年同月末比１万㌧＝4%増）に。３年産は５万㌧で、前年同月末と同数ある。未検査米が５万㌧あり、前年同月末と変わらず。

過去６年間の５月末の民間在庫水準（出荷段階と販売段階の合計）は平均で181万㌧と算出できる。今年４月の在庫は、これを４万㌧（1%）上回っている。

年明け以降の月間販売数量は、▷1月22万㌧▷2月26万㌧▷3月29万㌧▷4月32万㌧▷5月34万㌧――と推移。業務用需要の回復や一部家庭用の復調によって増加傾向にある。６月も30万㌧ほどが販売されれば、民間在庫は約155万㌧水準となる。生産段階の６月末在庫は平成29年の40万㌧から漸減し、令和４年には29万㌧となっていた。集荷低迷分だけ増えて35万㌧ほどあると仮定すると、出荷・販売段階の155万㌧との合計で190万㌧水準も予想される。